

FRB、政策金利の引き上げを決定

ポイント① FRB、0.25%の利上げを決定

FRB（米連邦準備制度理事会）は、3月15-16日に開催されたFOMC（米連邦公開市場委員会）にて、FF（フェデラルファンド）金利の誘導目標を、0～0.25%から0.25～0.50%へ引き上げることと決定しました。パウエルFRB議長は、今回の利上げについて、「米国経済は極めて力強く、金融引き締めに対応する態勢が整っていること」を指摘した上で、「インフレにさらなる上向き圧力がかかるリスクを抑制すること」を引き上げの背景としました。また、約9兆米ドルにまで拡大したバランスシートに関しては、次回5月のFOMCにて、その詳細が決定する可能性を示唆しました。

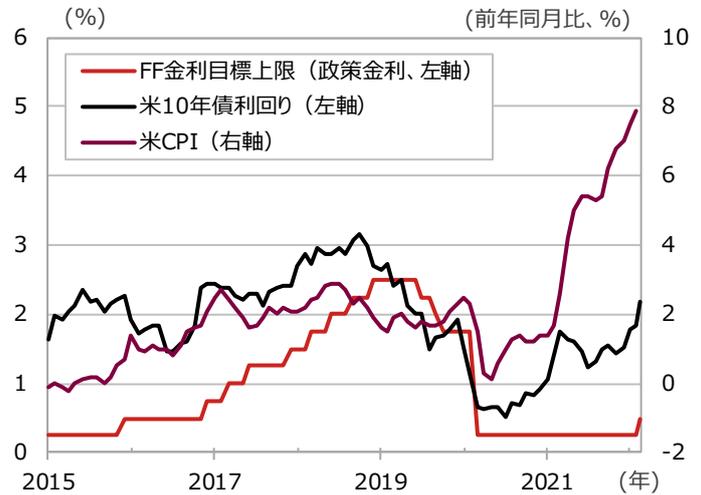
ポイント② 年内全てのFOMCで、利上げ実施か

ただ一方で、FOMC参加者の経済見通しによると、2022年末の実質GDPが、12月時点の見通しから大幅に下方修正されました。背景には、足元で緊迫化が続くウクライナ情勢が、さらなる物価上昇圧力となり、経済活動の重しになることへの警戒があるようで、FRBは同問題に対し、政策修正を「機敏に」進める意向を示した上で、「インフレ抑制のために必要であれば、今後の会合でより積極的な利上げを行なう」姿勢を表明しました。現に2022年末のFF金利の見通しについては、年内残りの全6回のFOMCにて、それぞれ0.25%の追加利上げが実施され、1.75～2.00%（右下図では中央値の1.9%）となると見込まれています。

ポイント③ FOMC後、米国債利回りは上昇

市場では、FOMCを受けて、「想定よりもFRBのタカ派色が強い」との見方が広がったことで、金融政策の影響を受けやすい中期債を中心に、米国債利回りは上昇しました。

米国の政策金利・10年債利回り・CPI（消費者物価指数）の推移



期間：2015年1月末～2022年3月16日、月次
(CPIは2015年1月～2022年2月、月次)
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

FOMC参加者の経済見通し

(単位、%)

	予測時点	2022				中長期
		2022	2023	2024	2024	
実質GDP ¹	22年3月	2.8	2.2	2.0	1.8	
	21年12月	4.0	2.2	2.0	1.8	
失業率 ²	22年3月	3.5	3.5	3.6	4.0	
	21年12月	3.5	3.5	3.5	4.0	
個人消費支出デフレーター(総合) ¹	22年3月	4.3	2.7	2.3	2.0	
	21年12月	2.6	2.3	2.1	2.0	
個人消費支出デフレーター(コア) ^{1,3}	22年3月	4.1	2.6	2.3		
	21年12月	2.7	2.3	2.1		
FF金利 ⁴	22年3月	1.9	2.8	2.8	2.4	
	21年12月	0.9	1.6	2.1	2.5	

(注) 1：第4四半期の前年同期比 2：第4四半期平均値
3：エネルギー、食品を除く 4：年末または中長期の目標レンジ中央値
(出所) FRB資料より野村アセットマネジメント作成

重要イベント
3月17日 米鉱工業生産指数 (2月)
3月31日 米個人所得、米消費支出、米消費支出デフレーター (2月)